



ZEEKSTAR



Future Report 2025

2025.01.01 - 2025.06.30

フューチャー株式会社 TSE PRIME SECTION:4722



ごあいさつ

先進テクノロジーの実装とイノベーティブなアイデアで 未来に新たな価値を創出する

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

フューチャーは、経営戦略とIT戦略の両輪でデザインするという理念のもと、多種多様な業種・業界のお客様の未来価値を最大化することをミッションとしています。戦略的ITをお客様に提供する「ITコンサルティング&サービス事業」と、培ってきたノウハウをアントレプレナーシップで実践する「ビジネスイノベーション事業」のシナジーにより、グループ全体の事業拡大と自らの未来価値の向上を図っています。また、様々な業種業態における当社グループのノウハウ及び知財の活用や、新たな分野への挑戦を通じて、ビジネスや社会における長年の課題を解決すべく努めています。

デジタルトランスフォーメーション(DX)への対応、AIやIoTの活用による省力化、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンなどを推進するためには、先進的なテクノロジーと独創的なアイデア、そしてあらゆる分野で培われたノウハウを融合させ、新しい時代に適した価値の創出に挑戦し続けることが重要です。

フューチャーは、あらゆる事象から発生するデータをもとに微細な変化も可視化するリアルタイムアーキテクチャによって、経営戦略とビジネスプロセスをデザインし環境の変化への対応力を備えたシステムを実装することで企業や社会のDXを推進しています。これからも真の改革を支援するとともに、お客様のビジネスや社会の持続的な成長と発展に貢献してまいります。

2025年9月



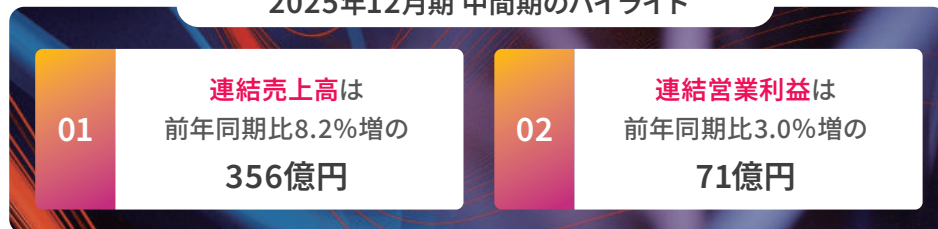
フューチャー株式会社
代表取締役会長 兼 社長 グループCEO

金丸恭文

当グループの現状及び今後の戦略について

2025年12月期 中間期の事業概況

2025年12月期 中間期のハイライト



2025年12月期中間期の連結業績は、売上高35,645百万円（前年同期比8.2%増）、営業利益7,108百万円（同3.0%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は、投資有価証券評価損の計上などにより4,571百万円（同6.0%減）となりました。

当中間期は、企業のDXによる業務改革をはじめ、生産性向上による深刻な人手不足への対応、国際情勢を踏まえたサプライチェーンの見直しなど、経営改革に向けた活発なIT投資が続いています。また、生成AI等を活用した新たなデジタルサービスの開発や業務効率化の動きも加速しています。

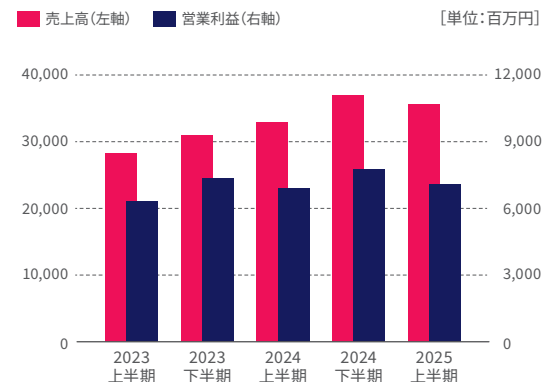
当社においては、「次世代バンキングシステム」の2行目が安定稼働を開始したことに加え、3・4・5行目のプロジェクトを開始しました。また、政府系の大型公共案件をはじめ複数の大規模プロジェクトも順調に進捗しています。加えて、経営統合したリヴァンプの業績が当期より通期寄与することから、売上高及び営業利益は増収・増益となりました。

株主還元策

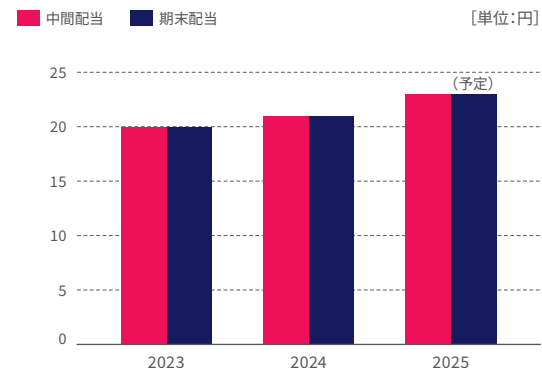
株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置づけ、持続的な成長を図るための内部留保資金を確保しつつ、期間損益、キャッシュ・フローの状況、自己株式の買付状況等を総合的に勘案して、連結の配当性向35%以上を目安に株主還元を実施しています。

この方針に基づき、2025年12月期の中間配当金については1株当たり23円とすることを決議いたしました。また、期末配当金は1株当たり23円、中間配当金と合計した年間配当金は46円を予定しています。

[連結] 半期別業績推移



1株当たり配当金



Future Topics

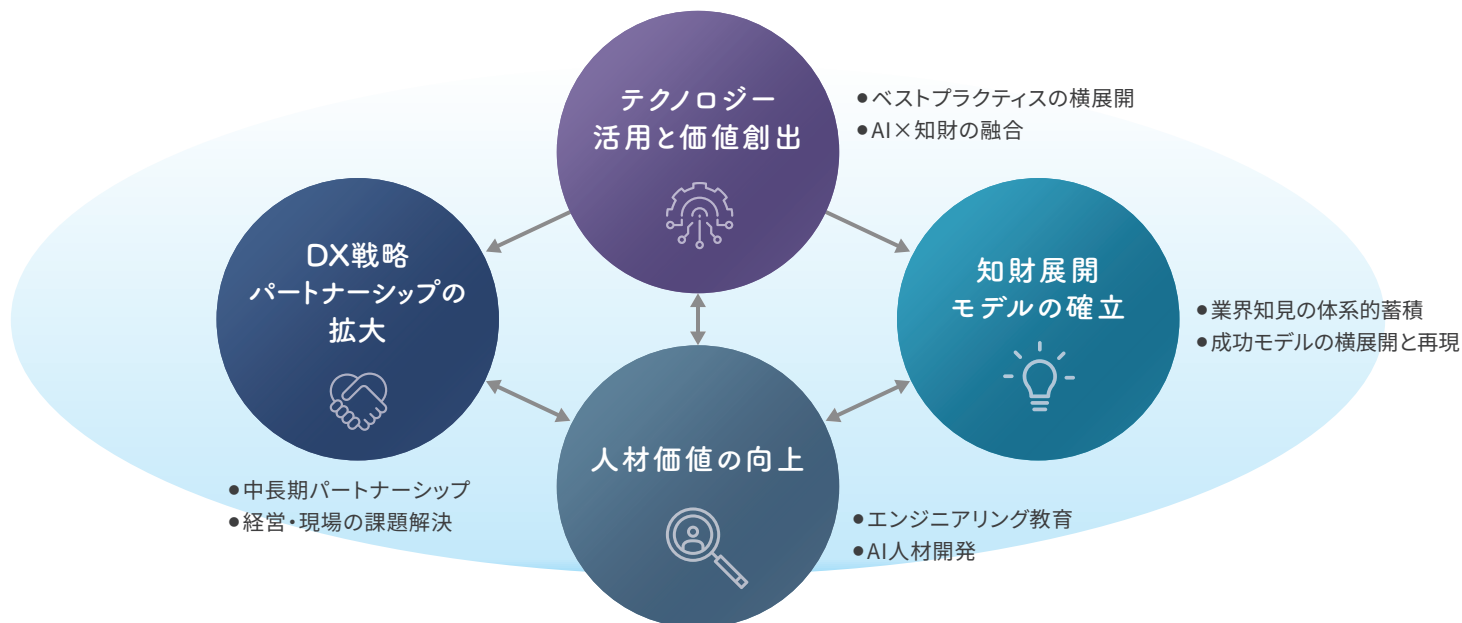
フューチャートピックス

フューチャーアーキテクトの成長戦略 ▶ 概要

成長サイクルの確立に向けて 4つの施策を連携

フューチャーの企業価値向上に向けて、ITコンサルティング&サービス事業の中核を担うフューチャーアーキテクトは、「人材価値の向上」を基盤に「DX戦略パートナーシップの拡大」「知財展開モデルの確立」「テクノロジー活用と価値創出」の4つの施策を連携させ、持続的な成長の実現に向けて取り組んでいます。

DX戦略パートナーシップの拡大によりトップラインを持続的に成長させるとともに、「次世代バンキングシステム」「FutureBANK」など知財展開モデルの確立により収益性をさらに高め、人的資本への投資を加速させます。また、コアコンピタンスであるテクノロジーの活用により顧客及び当社の生産性を大幅に向上させ、中長期的な成長サイクルの確立と企業価値の向上を図ります。



フューチャーアーキテクトの成長戦略

1

DX戦略パートナーシップの拡大

フューチャーは、SGホールディングス様の「DX戦略の策定」「実行」「組織・人材強化」を20年間にわたり包括的に支援するなど、DX戦略パートナーとして豊富なノウハウを蓄積しています。今後のさらなる顧客基盤の拡大に向けて、現場主義と顧客志向を持つリヴァンプとフューチャーアーキテクトが互いの強みを活かしながら、共同での提案活動及び共同プロジェクトの推進に取り組んでいます。

また、レガシーシステムを刷新しようとする顧客に対しても、戦略立案、業務支援、計画策定といった中長期的な成長に向けた提案を行うことで、自動車用製品メーカー、総合不動産、大手小売、鉄道など様々な分野で新規案件を獲得しています。顧客のDX推進を継続的に支援することでトップラインの拡大を図り、Win-Winの関係を構築していきます。

リヴァンプとの協業体制を加速

エンタープライズ企業のDX

FUTURE

- ・経営とIT戦略の一体デザイン
- ・業務プロセス改革
- ・研究開発、知財及び特許

×

ハンズオン経営支援

REVAMP

- ・現場主義と顧客志向
- ・経営実務、経営企画、DXを同時サポート
- ・マーケティング、クリエイティブ支援

顧客基盤の拡大



既存

2025年案件拡大

- ・自動車用製品メーカー
- ・総合不動産
- ・大手小売
- ・鉄道...etc

新規

2024年立ち上げ→2025年案件拡大

- ・総合商社
- ・金融コングロマリット
- ・大手製薬メーカー
- ・大手飲料メーカー
- ・大手小売
- ・大手生命保険...etc

2025年立ち上げ

- ・大手損害保険
- ・大手電気機器メーカー
- ・戸建住宅開発...etc

Future Topics

フューチャートピックス

フューチャーアーキテクトの成長戦略

2

知財展開モデルの確立

フューチャーは、「次世代バンキングシステム」「FutureBANK」など体系化されたノウハウを展開することにより、「ライセンス」と「コンサルティング&開発」を組み合わせた「知財展開モデル」の確立を目指しています。「次世代バンキングシステム」は、1行目の福島銀行様に続き2行目の島根銀行様で安定稼働を開始、3行目はグランドデザインを開始、4・5行目は要件定義を開始しました。また、「FutureBANK」は、きらぼし銀行様で安定稼働を開始、鹿児島銀行様では要件定義を開始しました。これらは当社の中長期的な成長に資するプロジェクトであり、株主や投資家の皆様からも高い関心が寄せられています。

「知財展開モデル」のビジネスをさらに拡大すべく、アパレル業界向け「FutureApparel」をはじめ、メディア業界向け「GlyphFeeds」、卸業界基幹ソリューションなども複数の顧客へ積極的に提案しています。

金融

● 次世代バンキングシステム (金融機関: 勘定系)

福島銀行様
島根銀行様

A銀行
B銀行
C銀行

NEXT

- 島根銀行様に導入した「次世代バンキングシステム」が7月に稼働開始、安定稼働中
- 3行目はグランドデザインを開始、また4・5行目を獲得
- **NEXT** 複数の銀行へ提案中、第4四半期開始予定(1行)

その他

● FutureApparel (アパレル業界: 基幹業務)

アパレルD社

アパレルE社

NEXT

- **NEXT** 導入に向けて複数のアパレル企業へ提案中(下期以降)

● GlyphFeeds (メディア業界: 統合編集CMS)

読売新聞様

信濃毎日新聞様

NEXT

- **NEXT** 導入に向けて複数の新聞社へ提案中(下期以降)

フューチャーアーキテクトの成長戦略 3

生成AIなどのテクノロジー活用と価値創出

フューチャーはテクノロジーによる価値創出を強みに、顧客の課題解決及び自社の生産性向上の両面での取組みを推進しています。当期は、新聞業界における生成AIの活用を進めるとともに、自社の生産性向上に向けてソフトウェア開発に特化した生成AIの開発を推進しました。

顧客の課題解決に向けた生成AI活用については、新聞業界における大規模言語モデルの活用として信濃毎日新聞様と実証実験を行い、高い業務削減効果を確認しました。この実験で得られたノウハウを当社のメディア業界向けプラットフォーム「GlyphFeeds」に搭載し、生産性のさらなる向上に貢献していきます。

また、国の生成AI開発強化プロジェクト「GENIAC」に採択され、日本語とソフトウェア開発に特化した生成AIを開発し、その成果を公開しました。この生成AIは、ChatGPTなどグローバルな生成AIが不得手としていた日本語に関して高い性能を有しており、ソフトウェア開発における生産性の向上に期待が寄せられています。

顧客の課題解決

メディア業界における生成AI活用

信濃毎日新聞

GlyphFeeds

メディア業界向けプラットフォーム

既存LLM活用

特化LLM開発

AIエージェント活用

業界・自社の生産性向上

「GENIAC」採択ソフトウェア開発特化型の生成AI開発

GENIAC



特化LLM開発

Future Topics

フューチャートピックス

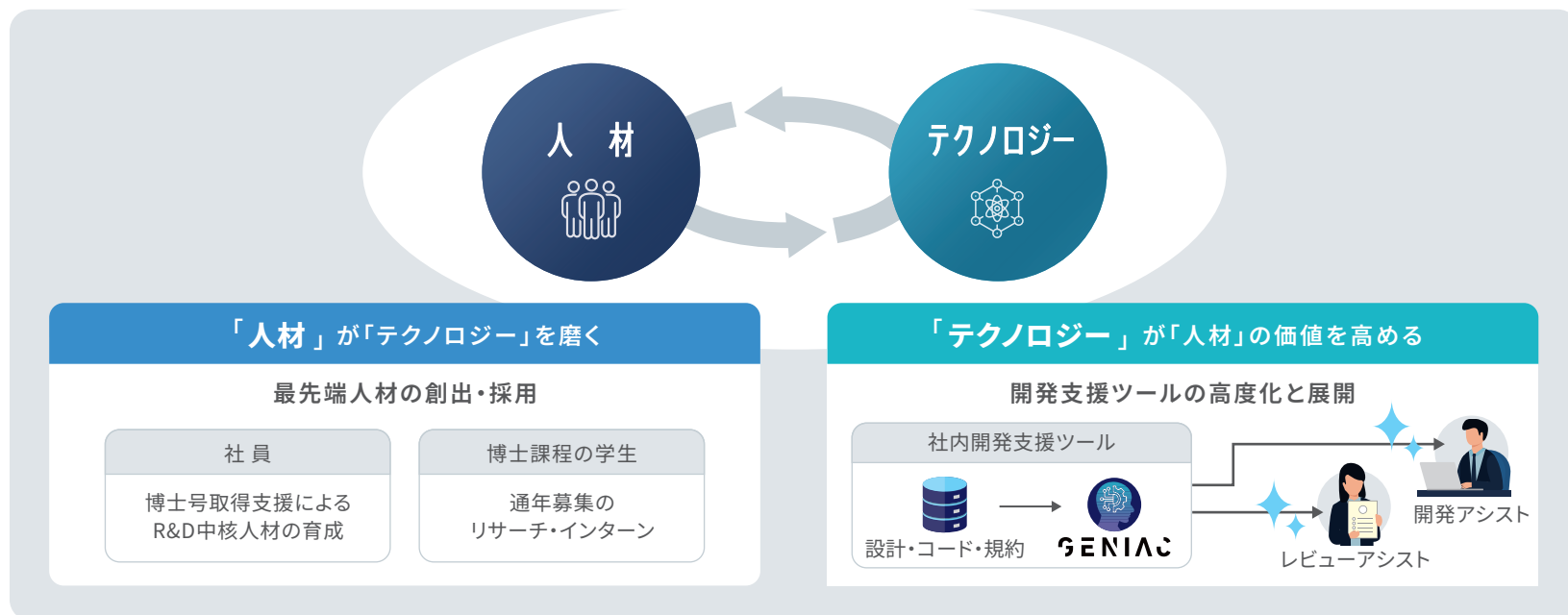
フューチャーアーキテクトの成長戦略

4

人材価値の向上

フューチャーは、「人材」が「テクノロジー」を磨き、「テクノロジー」が「人材」の価値を高める好循環を創り出し、持続的な成長を加速させることを目指しています。「テクノロジー」に関しては、日本語とソフトウェア開発に特化した生成AIと当社独自の開発支援ツールを連動させることで、LLM開発手法にイノベーションを起こし、従来の設計・開発の生産性を3倍に高める取組みを進めています。

「人材」に関しては、最先端人材の創出に向けて、社員の博士号取得支援を開始しました。さらに博士後期課程の学生を対象として、革新的な研究開発や難関国際会議での論文採択を目指して当社の社員とともに研究開発を行うリサーチ・インターン制度の運用も開始し、優秀な人材の獲得に努めています。





「Future PhD Support Program」を導入

博士号の取得支援により先端技術人材の育成を加速

フューチャーは、社員の博士号取得を支援する社会人ドクター支援制度「Future PhD Support Program」を導入し、今春より第1期となるメンバーが国内の国立大学において博士後期課程での修学を開始しました。

近年、企業のイノベーション創出やグローバル競争力の強化といった観点から、AIをはじめとした先端技術分野における人材の育成と活躍が期待されています。フューチャーではこれまでも国内の複数の大学と産学共同研究を進めており、海外では社員をスタンフォード大学に客員研究員として派遣するなど、最先端の研究とビジネスへの応用を両輪で促進するプログラムを積極的に実施してきました。

この度導入した「Future PhD Support Program」は、研究開発の中核を担う人材の育成強化を目的に、社員が働きながら博士号の取得を支援するものです。社内で選抜・承認されたメンバーに対して、当社の技術・事業戦略上の重要性が高いAIなどの先端領域を対象に国内における博士後期課程への修学を支援します。研究内容について当社が進める研究開発の方針と適合する場合には、業務として研究・修学することができます。

また、内容に応じて、対象者と働き方を相談のうえ、修学中にコミットする業務成果の割合を選択できる成果比率型裁量労働制[※]を適用することもでき、研究と業務の両立を可能にします。今後は、博士前期課程を修了する学生が働きながら博士後期課程へ進学することを想定した仕組みなど、高度専門人材の採用・育成に向けて積極的な制度拡充についても検討します。

※成果比率型裁量労働制：現時点の成果が100%と考えたときに、成果量を80%や60%などに調整することで、個人の事情に応じた働き方を実現し、求められる成果と報酬の割合を選択可能とするフューチャーオリジナルの制度。

「Future PhD Support Program」概要

対象者	フューチャー株式会社、フューチャーアーキテクト株式会社に2年以上勤務する所定の評価を得た社員
研究領域	AI、ヘルスケア、セキュリティ等の先端技術領域
支援対象	入学金、授業料
支援金額	上限100万円/半期(年間200万円)
支援期間	原則3年間(研究内容によって延長あり)

フューチャーの業績・財務状況

✓ 決算のポイント

連結貸借対照表

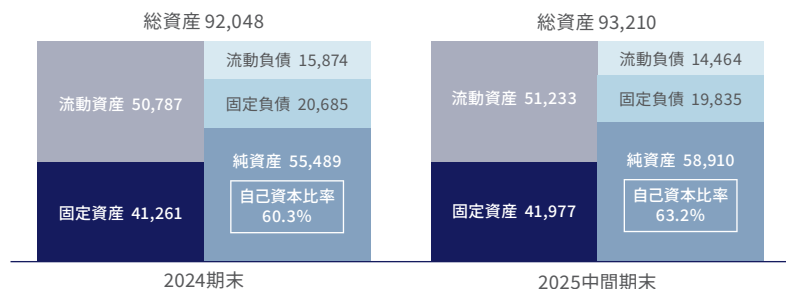
- 総資産は、現金及び預金の増加等により、前期末比1,161百万円増加
- 負債は、長期借入金、未払法人税等の減少等により前期末比2,259百万円減少
- 純資産は、利益剰余金の増加等により、前期末比3,420百万円増加

[単位:百万円]

	前連結会計年度末 2024年12月31日現在	当中間連結会計期間末 2025年6月30日現在
流動資産	50,787	51,233
固定資産	41,261	41,977
流動負債	15,874	14,464
固定負債	20,685	19,835
純資産	55,489	58,910
総資産	92,048	93,210

総資産の推移

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

✓ 決算のポイント

連結損益計算書

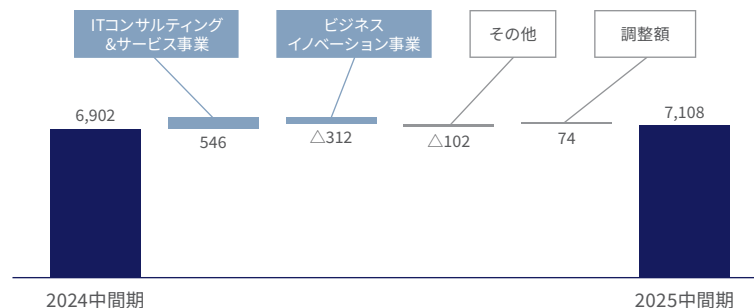
- ITコンサルティング&サービス事業は増収・増益、ビジネスイノベーション事業は減収・減益となり、連結全体の売上高、営業利益は増収・増益、親会社株主に帰属する中間純利益は減益

[単位:百万円]

	前中間連結会計期間 自2024年 1月 1日 至2024年 6月30日	当中間連結会計期間 自2025年 1月 1日 至2025年 6月30日
売上高	32,954	35,645
売上総利益	15,902	16,952
販売費及び一般管理費	8,999	9,843
営業利益	6,902	7,108
経常利益	7,107	7,206
親会社株主に帰属する中間純利益	4,864	4,571

営業利益の増減要因

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

✓ 決算のポイント

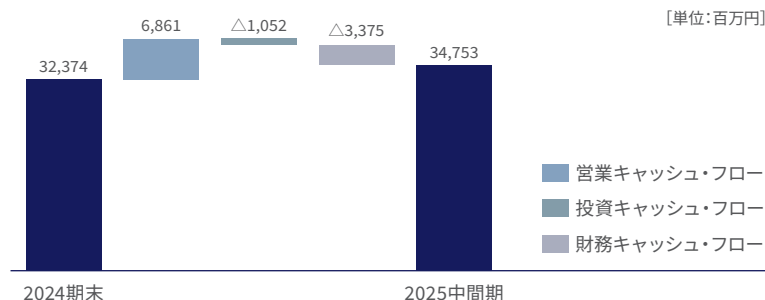
連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権及び契約資産の増加等により、6,861百万円の収入
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等により、1,052百万円の支出

[単位:百万円]

	前中間 連結会計期間 自2024年 1月 1日 至2024年 6月30日	当中間 連結会計期間 自2025年 1月 1日 至2025年 6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,068	6,861
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,817	△1,052
財務活動によるキャッシュ・フロー	17,191	△3,375
現金及び現金同等物に係る換算差額	103	△53
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	3,544	2,378
現金及び現金同等物の期首残高	28,215	32,374
現金及び現金同等物の中間期末残高	31,760	34,753

キャッシュ・フロー

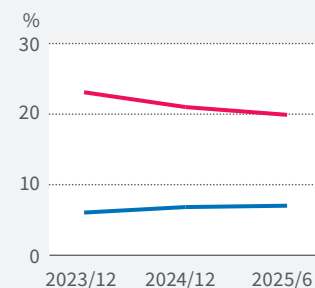


※現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

フューチャーの投資指標

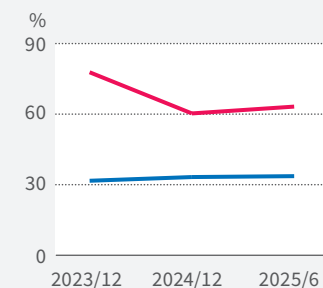
売上高営業利益率

— 当社(連結) — 東証プライム市場平均※1



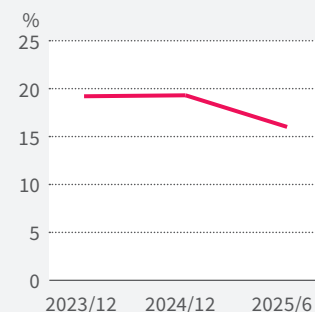
自己資本比率

— 当社(連結) — 東証プライム市場平均※1



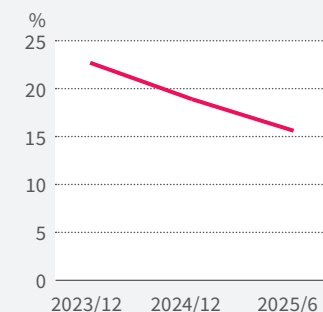
自己資本当期純利益率(ROE)※2

— 当社(連結)



総資産経常利益率(ROA)※2

— 当社(連結)

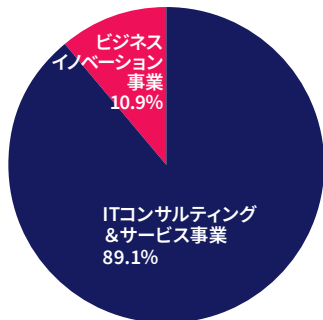


※1 2023年3月期、2024年3月期、2025年3月期決算短信(非連結を含む)を発表した東証プライム市場上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。(出典:東京証券取引所統計資料)

※2 自己資本当期純利益率・総資産経常利益率の2025年6月の数値は年率換算しております。

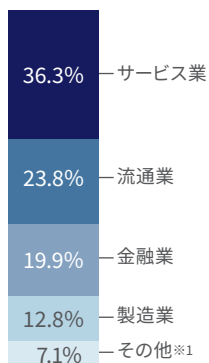
フューチャーのセグメント別業績・戦略

セグメント別売上高構成比 2025年中間期

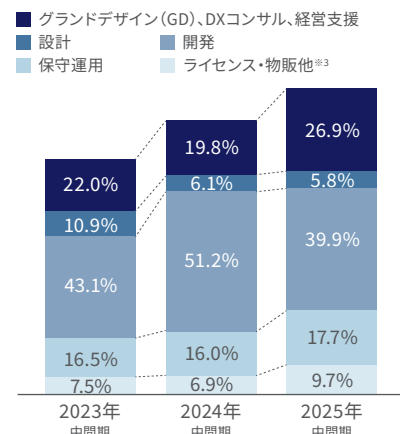


ITコンサルティング&サービス事業における業種別売上高構成比

2025年中間期



ITコンサルティング&サービス事業におけるフェーズ別※2売上高構成比推移



※1「その他」は、官公庁・地方公共団体等への売上高となります。

※2 第1四半期まで「GD」「保守運用」「ライセンス・物販他」に区分していたリヴァンプの売上を、当中間期より「GD」「設計・開発」「保守運用」「ライセンス・物販他」に区分して表示しています。2024年中間期の数値も同様の区分をしています。

※3「ライセンス・物販他」は知財からのライセンス収入、IT機材の選定・調達・販売に係る売上等となります。

2025 上半期レビュー

ITコンサルティング&サービス事業

- フューチャーアーキテクトは、「次世代バンキングシステム」などの知財導入案件のほか、政府主導の医療DXなどの大規模プロジェクトが順調に進捗し、増収。一方で営業活動に注力した影響から、利益は横ばいとなりました。
- フューチャーインスペースは、定常的な保守運用サービスなどが好調に推移したものの、大型の開発案件がピークアウトした影響により、若干の減収・減益となりました。
- FutureOneは、「InfiniOne」の鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注の拡大などにより増収・増益となりました。
- フューチャーアーティザンは、プロジェクトの受注が計画を下回ったことなどから、減収・減益となりました。
- フューチャーセキュアウェイブは、セキュリティサービスを中心に新規受注が拡大したことなどから、増収・増益となりました。
- リヴァンプは、経営マーケティング事業及びDX事業が計画を上回ったことに加え、経営マーケティング事業において、支援先の企業価値向上に伴う成功報酬売上を計上したことから、増収・増益となりました。なお、当期より業績が通期寄与しています。

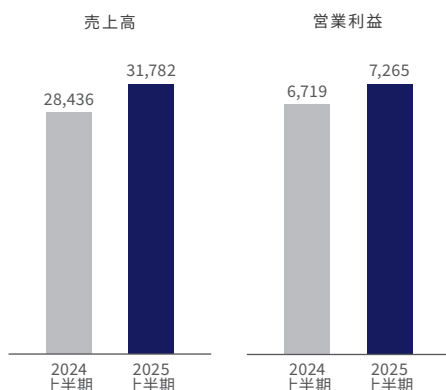
ビジネスイノベーション事業

- YOCABITOは、プライベートブランドの収益性や粗利率は向上したものの、ナショナルブランドを中心に売上が伸び悩み、減収・減益となりました。
- 東京カレンダーは、コンテンツ事業の広告売上やイベント開催による収益に加え、「東カレデート」等のネットサービスによる収益が好調に推移し、増収・増益となりました。
- ライブリッツは、会員管理・ECパッケージ「FastBiz」の既存顧客のシステム投資案件が計画通りに進捗したものの、新規事業の立ち上げにより減収。一方、各種コストを抑制したことから増益となりました。
- キュリオシティは、腕時計などの海外ラグジュアリーブランドのストアデザインが順調に進捗しているものの、前年同期に完了したジュエリーブランドの大型ストアデザインが当期はないことから、減収・減益となりました。

2025 上半期実績

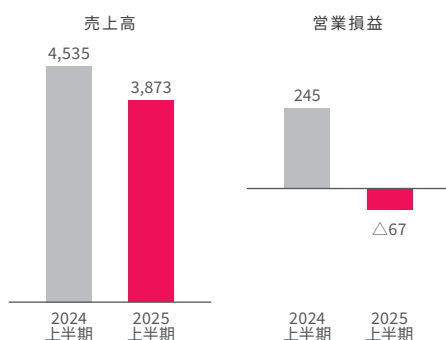
ITコンサルティング&サービス事業

[単位:百万円]



ビジネスイノベーション事業

[単位:百万円]



今後の見通し

ITコンサルティング&サービス事業

- フューチャーアーキテクトは、リヴァンプなどグループ各社との協業を一層推進し、経営・ITコンサルティングを通じて顧客の経営課題解決に貢献する体制を強化し、経営改革を図る顧客からブランドデザイン及びDXの推進を意識した基幹システム刷新、データ基盤構築等の新規案件を受注しました。今後は、「人材価値向上」を核として、「DX戦略パートナーシップの拡大」「知財展開モデルの確立」「テクノロジー活用と価値創出」による成長サイクルの確立を目指していきます。
- フューチャーインスペースは、複数の大型プロジェクトの開発を安定的に進めるため、さらなる開発品質向上と人材採用・育成に注力します。
- FutureOneは、「InfiniOne」の業界特化型の営業展開による受注拡大を図るとともに、製品強化にも努め、製販一体でのトータルソリューション提供を目指します。
- フューチャーアーティザンは、製造業向けDXコンサルティングや「Smart Factory」構築、「ESG経営共創サービス」などによりビジネスの拡大を狙います。
- フューチャーセキュアウェイブは、危機管理対応とセキュリティ診断サービスの提供に加え、フューチャーグループ各社と連携し、収益拡大を目指します。
- リヴァンプは、経営マーケティング事業における既存案件の着実な遂行に加え、DX事業における既存顧客のグローバル展開支援案件の拡大を目指すとともに、投資先や海外先進技術企業との協業により新規顧客を開拓します。また、グループのリソースとノウハウを最大限に活用し、共同案件の創出などシナジーの早期実現を図ります。

ビジネスイノベーション事業

- YOCABITOは、プライベートブランド新商品及びリニューアル品の投入により収益改善を図るとともに、不採算商品の処分やコスト削減を進め、業績改善に努めます。
- 東京カレンダーは、媒体やイベント、ネットサービスなどコンテンツの最適化を図り、ブランド力とユーザーエンゲージメントのさらなる向上を目指します。
- ライブリッツは、プロ野球で培ったデータ分析技術やファンマーケティングの手法を、多様な競技をはじめ一次産業やエンターテインメント業界へと展開し、DXを活用した顧客リレーションシップによりさらなる成長と収益拡大を目指します。
- キュリオシティは、プロジェクト規模の大きい高級ホテルなどのインテリアデザイン事業に注力するほか、世界的ブランドのストアデザインを顧客の世界展開に合わせて継続的に受注していきます。

■ 会社概要 (2025年6月30日現在)

会社名	フューチャー株式会社
英文社名	Future Corporation
設立	1989年11月28日
資本金	40億円
従業員数	3,582名(連結)

■ 主要な連結子会社の状況 (2025年6月30日現在)

フューチャーアーキテクト株式会社
フューチャーインスペース株式会社
FutureOne株式会社
株式会社リヴァンプ
フューチャーアーティザン株式会社
フューチャーセキュアウェイブ株式会社
株式会社YOCABITO
東京カレンダー株式会社
ライブリッツ株式会社
株式会社キュリオシティ

他11社

■ 役員 (2025年6月30日現在)

代表取締役会長 兼 社長	金丸 恭文
取締役副社長	石橋 国人
取締役	神宮 由紀
取締役	谷口 友彦
取締役CTO	齋藤 洋平
取締役	山岡 浩巳
取締役(常勤監査等委員)	市原 令之
取締役(監査等委員)	川本 明
取締役(監査等委員)	榊原 美紀
取締役(監査等委員)	竹内 明日香
取締役(監査等委員)	西浦 由希子

■ 主な事業所 (2025年6月30日現在)

本社	〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー TEL : 03-5740-5721 FAX : 03-5740-5820
名古屋オフィス	愛知県名古屋市中区
大阪オフィス	大阪府大阪市中央区
福岡オフィス	福岡県福岡市博多区
鹿児島オフィス	鹿児島県鹿児島市

株式の状況 (2025年6月30日現在)

発行可能株式総数 378,752,000株
 発行済株式の総数 95,328,000株
 株主数 6,640名

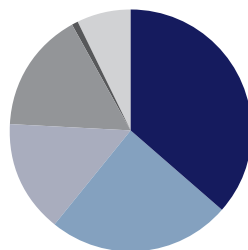
大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
合同会社キーウェスト・ネットワーク	30,187	34.0
金丸 恭文	11,117	12.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,732	8.7
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,564	5.1
SGホールディングス株式会社	4,000	4.5
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,776	2.0
石橋 国人	1,236	1.3
モリヤマ ヒロシ	1,164	1.3
フューチャー従業員持株会	1,157	1.3
JP MORGAN CHASE BANK 385632	1,016	1.1

※1 当社は、自己株式を6,652千株保有していますが、上記大株主からは除外しています。

※2 持株比率は自己株式(6,652千株)を控除して計算しています。

株式の所有者別状況



● その他国内法人	34,678 千株	36.39%
● 個人・その他	23,350 千株	24.49%
● 外国人	14,460 千株	15.17%
● 金融機関	15,161 千株	15.90%
● 金融商品取引業者	1,024 千株	1.07%
● 自己株式	6,652 千株	6.98%

ご注意

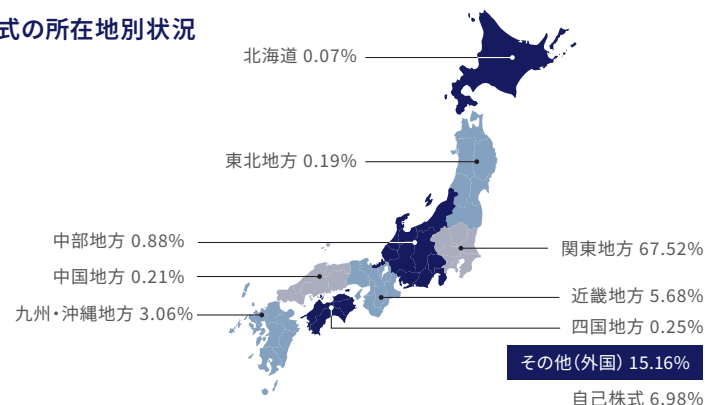
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主メモ

決算期 12月31日 期末配当基準日 12月31日
 定時株主総会 3月 中間配当基準日 6月30日

株主名簿管理人・ 特別口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 (連絡先・照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル:0120-782-031 ホームページ: https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
公告掲載URL	https://www.future.co.jp/investor_relations/notice/ ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

株式の所在地別状況



注意事項

本レポートには、現時点における情報に基づいた将来にかかわる予測が含まれております。それらは今後の日本経済やITサービス業界の動向などにより、変動する可能性があります。従って、当社がその確実性を保証または約束するものではないことも予めご承知おきください。

Future Report 2025

フューチャー株式会社

本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2

<https://www.future.co.jp>

表紙写真: ジークスター東京

「ジークスター東京」は、フューチャーグループのジークスタースポーツエンターテインメント株式会社が運営・マネジメントするリーグH（日本ハンドボールリーグより名称変更）所属チームです。